

(学校番号 223) 令和4年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【桜木中学校】

① 4月28日 目標・策			
知識・技能	令和4年度さいたま市学習状況調査において、「知識・技能」の平均正答率を、国語は8割以上、数学は7割以上とする。	⇒	・「ドリルパーク」「スタディサプリ」等を活用し、基本的な漢字の読み書き、計算の反復を行う。 ・授業の開始時や単元ごとに小テストや確認テストを実施し、基礎・基本の確実な定着を図る。
思考・判断・表現	令和4年度さいたま市学習状況調査において、「思考・判断・表現」の平均正答率を、国語は4割以上、数学は7割以上とする。	⇒	・授業の中に話し合い活動やスピーチ活動を積極的に位置づけ、表現する力の向上を図る。 ・1人1台タブレット端末を活用し、情報活用や発表の能力を高める学習活動を多く設定する。
主体的に学習に取り組む態度	令和4年度さいたま市学習状況調査において、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目で肯定的な回答の割合を77%以上にする。	⇒	・「桜木中学校学びの道しるべ」を活用し、学習の見直しをもたせる。 ・学習課題を提示して課題解決型の授業を展開し、授業中に自己の振り返りの時間を設定する。

③ 9月1日 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)			
知識・技能	全国学力・学習状況調査では、国語と数学のいずれも「知識・技能」において、全国平均を4pt以上上回った。方策を追加し、引き続き目標達成を目指す。	⇒	・概念の必要性を理解し、意味の理解を深めるために、授業の中で既習事項の確認を繰り返し丁寧に行う。
思考・判断・表現	全国学力・学習状況調査では、国語と数学のいずれも「思考・判断・表現」において、全国平均を5pt以上上回った。方策を追加し、引き続き目標達成を目指す。	⇒	・すべての教科において、授業の中で「書くこと」を重視した活動を増やしていく。 ・数やグラフの特徴や傾向を捉えて、言葉や数を用いて表現する活動を重視していく。
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査では、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」に加えて「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を8割以上にする。	⇒	・学習の過程や成果を積極的に評価する場面を積極的に設定し、次時の学習意欲の向上を図る。 ・学習改善につながるよう、個々の生徒に細かなフィードバックを行う。

② 8月31日 全国学力・学習状況調査結果・分析	
<p>・国語、数学、理科のいずれにおいても、平均正答率は全国平均を5pt以上上回った。 ・国語では、「言語の特徴や使い方にに関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「読むこと」がいずれも全国平均を5pt以上上回ったものの、「情報の扱いに関する事項」「書くこと」がいずれも全国平均を5pt以下下回った。 ・数学では、「数と式」「図形」「関数」「データの活用」のすべてにおいて、いずれも全国平均を5pt以上上回った。 ・理科では、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」のすべてにおいて、いずれも全国平均を上回った。 ・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は90%を超えた。 また、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は88%であり、いずれも全国平均を大きく上回った。</p>	

④ 2月17日 さいたま市学習状況調査結果・分析	
中1	国語の「我が国の言語文化に関する事項」、数学の「図形」の分野の平均正答率が市平均を大きく上回った。一方、国語の「言葉の特徴や使い方にに関する事項」の分野の平均正答率が市平均を下回り、課題が見られた。各教科とも無回答率の割合が市平均に比較して高くなっている。自分の考えをもたせ、学習の足跡を残す指導を積み重ねていく必要がある。
中2	国語の「話すこと・聞くこと」の分野の平均正答率が市平均を大きく上回った。一方、数学の「図形」「関数」「データの活用」の分野の平均正答率が市平均を下回り、課題が見られた。定期テストでは概ねできていた内容でも正答率が低いものがあった。系統的につながりのある内容について、繰り返し学習させるなどしてさらなる定着を図っていく必要がある。
中3	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は88%であった。「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は87%であった。主体的に学習に取り組む様子が見られるようになったと考えられる。

⑤ 2月17日 成果指標に対する達成状況 評価(※)		
知識・技能	令和4年度さいたま市学習状況調査の「知識・技能」において、国語は、市平均を上回ったものの、数学は市平均を上回ることができなかった。また、国語・数学ともに、平均正答率の目標は達成できなかった。	C
思考・判断・表現	令和4年度さいたま市学習状況調査の「思考・判断・表現」において、国語は、市平均を上回ったものの、数学は市平均を上回ることができなかった。また、国語・数学ともに、平均正答率の目標は達成できなかった。	C
主体的に学習に取り組む態度	令和4年度さいたま市学習状況調査の結果、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目における肯定的な回答の割合は85%で、目標を達成することができた。また、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目における肯定的な回答の割合は83%だった。	A

⑥ 3月9日 次年度への課題と改善策	
知識・技能	基礎的・基本的な知識・技能のさらなる定着を図るため、反復練習や小テストを定期的実施していく。また、基礎・基本の定着には個人差が大きいため、個に応じた必要な支援を講じていく。 生徒同士が自らの考えを話し合う学びを全学年で重点的に取り組み、意味の理解を深める学習活動を充実させていきたい。
思考・判断・表現	根拠となる部分を引用して自分の考えを述べたり、表やグラフ、資料の特徴や傾向を捉えて、言葉や数を用いて表現する活動に重点的に取り組んでいく。 「学級の生徒との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が94%であった。次年度は、主体的に対話的な深い学びのさらなる実現に向けて授業改善に取り組んでいく。
主体的に学習に取り組む態度	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を80%以上を維持する。次年度は、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問項目の肯定的な回答の割合を60%から65%に向上できるように、学校で学んだことを家庭学習にもつなげる手立てを講じていきたい。

※評価
 A 8割以上(達成) C 4割以上(あと一歩)
 B 6割以上(概ね達成) D 4割未満(不十分)